

グループホームぼだいじ
認知症対応型共同生活介護事業所運営規程

(目的)

第1条 この規程は、社会福祉法人 近江ちいろば会が設置運営する認知症対応型共同生活介護事業の運営及び利用について必要な事項を定め、事業の円滑な運営を図ることを目的とする。

(事業の目的)

第2条 本事業は、認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の世話及び日常生活の中での心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができるよう支援することを目的とする。

(運営の方針)

- 第3条 本事業所において提供する認知症対応型共同生活介護は、介護保険法並びに関係する厚生労働省令、告示の趣旨及び内容に沿ったものとする。
- 2 利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めるとともに、個別の介護計画を作成することにより、利用者が必要とする適切なサービスを提供する。
 - 3 利用者及びその家族に対し、サービスの内容及び提供方法についてわかりやすく説明する。
 - 4 適切な介護技術を持ってサービスを提供する。
 - 5 常に、提供したサービスの質の管理、評価を行う。
 - 6 上記のほか、「湖南省指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例」の規程を遵守し、事業を実施するものとする。
 - 7 上記のほか、「湖南省指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例」の規程を遵守し、事業を実施するものとする。

(事業所の名称)

第4条 本事業所の名称は「グループホームぼだいじ」とする。

(職員の員数及び職務内容)

第5条 本事業所に勤務する職員の員数及び職内容は次のとおりとする。

- ① 管理者 1名（常勤・専従）
管理者は、業務の管理及び職員等の管理を一元的に行う。
- ② 計画作成担当者 2名（常勤・専従）
計画作成担当者は、適切なサービスが提供されるよう介護計画を作成すること、とともに、連携する介護老人福祉施設、介護老人保健施設、病院等との連絡・調整を行う。
- ③ 介護職員 10名以上（常勤・専従4名以上、非常勤・専従6名以上）
介護従事者は、利用者に対し必要な介護及び支援を行う。

(営業日)

第6条 営業日は、365日とする。

(利用定員)

第7条 利用定員は、18名とする。

(介護の内容)

第8条 指定認知症対応型共同生活介護の内容は次のとおりとする。

- ① 入浴、排泄、食事、着替え等の介助
- ② 日常生活上の世話
- ③ 日常生活の中での機能訓練
- ④ 相談、援助

(介護計画の作成)

第9条 認知症対応型共同生活介護サービスの開始に際し、利用者の心身の状況、希望及びそのおかれている環境を踏まえて、個別に認知症対応型共同生活介護計画（以下介護計画）を作成する。

- 2 介護計画の作成、変更に際しては、利用者及び家族に対し、当該計画の内容を説明し、同意を得る。
- 3 利用者に対し、介護計画に基づいて各種サービスを提供するとともに、常に、その実施状況についての評価を行う。

(短期利用共同生活介護)

第10条 本事業所は、各共同生活住居の定員の範囲内で、空いている居室等を利用し、短期間の指定認知症対応型共同生活介護（以下「短期利用共同生活介護」という。）を提供する。

- 2 短期利用共同生活介護の定員は1ユニットにつき1名とする。
- 3 短期利用共同生活介護の利用は、あらかじめ30日以内の利用期間を定めるものとする。
- 4 短期利用共同生活介護の利用に当たっては、利用者を担当する居宅介護支援専門員が作成する居宅サービス計画の内容に沿い、本事業所の計画作成担当者が認知症対応型共同生活介護計画を作成することとし、当該認知症対応型共同生活介護計画に従いサービスを提供する。
- 5 入居者が入院等のために、長期にわたり不在となる場合は、入居者及び家族の同意を得て、短期利用共同生活介護の居室を利用することがある。なお、この期間の家賃等の経費については入居者ではなく、短期利用共同生活介護の利用者が負担するものとする。

(指定認知症対応型共同生活介護に係る利用料等)

第11条 本事業が提供する指定認知症対応型共同生活介護の利用料は、介護報酬の告示上の額とし、法定代理受理サービスであるときは、利用者の介護保険負担割合証に記載された割合の額とする。

ただし、次に掲げる項目については、別に利用料金の支払いを受ける。

②	家賃	60,000円/月
②	食費	1,850円/日
	特別食（月1回程度）	+100円/回
③	共益費	20,000円/月
	夏季冷房費（6月～9月）	4,000円/月
	冬季暖房費（11月～3月）	5,000円/月
	電気製品持込費 1個につき	500円/月

ただし、下記4点には別途料金になります。（11月～3月に限る）

・電気カーペット 2畳用	1個当たり	1ヶ月	3,000円
・セラミックファンヒーター	1個当たり	1ヶ月	5,000円
・デロンギオイルファンヒーター	1個当たり	1ヶ月	2,000円
・電気こたつ	1個当たり	1ヶ月	1,500円

④	日用品費	4,000円/月
---	------	----------

⑤	入居一時金（施設維持協力金）	300,000円
---	----------------	----------

※6か月以内での退去の場合は100,000円を返金いたします。

※7か月以上での退去の場合には返金はありません。

⑥	その他日常生活において通常必要となる費用で利用者が負担することが適当と認められる費用	実 費
---	--	-----

- 2 利用料の支払いは、月ごとに発行する請求書に基づき、現金または銀行口座振込によって指定期日までに受けるものとする。

（短期利用共同生活介護に係る利用料等）

第12条 本事業所が提供する短期利用共同生活介護の利用料は介護報酬の告示上の額とし、法定代理受理サービスであるときは、利用者の介護保険負担割合証に記載された割合の額とする。

ただし、次に掲げる項目については、別に利用料金の支払いを受ける。

①	宿泊費	3,000円/日
---	-----	----------

②	食費	1,850円/日
---	----	----------

③	送迎代（利用された場合）	1,000円/回
---	--------------	----------

④	その他日常生活において通常必要となる費用で利用者が負担することが適当と認められる	
---	--	--

費用 実 費

- 2 利用料の支払いは、月ごとに発行する請求書に基づき、現金または銀行口座振込によって指定期日までに受けるものとする。

（通常事業の実施地域）

第13条 通常の事業の実施地域は、湖南省全域 とする。

（入退居に当たっての留意事項）

第14条 認知症対応型共同生活介護の対象者は、要介護者であって認知症の状態にあり、かつ次の各号を満たす者とする。

- ① 少人数による共同生活を営むことに支障がないこと。
- ② 自傷他害のおそれがないこと。
- ③ 常時医療機関において治療をする必要がないこと。
- 2 入居後利用者の状態が変化し、前項に該当しなくなった場合は、退居してもらう場合がある。
- 3 退居に際しては、利用者及び家族の意向を踏まえた上で、他のサービス提供機関と協議し、介護の継続性が維持されるよう、退居に必要な援助を行うよう努める。
- 4 短期利用共同生活介護の利用者の入退居に際しては、利用者を担当する居宅介護支援専門員と連携を図ることとする。

(秘密保持)

第15条 本事業所の従業者は、業務上知り得た利用者またはその家族の秘密保持を厳守する。

- 2 従業者であった者が、業務上知り得た利用者または家族の秘密を漏らすことがないよう、必要な措置を講ずる。

(苦情処理)

第16条 利用者からの苦情に対して、迅速かつ適切に対応するため、受付窓口の設置、担当者の配置、事実関係の調査の実施、改善措置、利用者及び家族に対する説明、記録の整備等必要な措置を講ずるものとする。

(損害賠償)

第17条 利用者に対する介護サービス提供に当たって、賠償すべき事故が発生した場合は、速やかに損害賠償を行う。

- 2 前項の損害賠償のために、損害賠償責任保険に加入する。

(衛生管理)

第18条 指定認知症対応型共同生活介護を提供するのに必要な設備、備品等の清潔を保持し、常に衛生管理に留意する。

- 2 従業者は、感染症等に関する知識の習得に努める。
- 3 事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように次の各号に掲げる措置を講じるものとする。

(1) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)をおおむね6月に 1回以上開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。

(2) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。

(3) 自業所において、従業者に対し、感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練を定期的実施する。

(緊急時における対応策)

第19条 利用者の心身の状態に異変その他緊急事態が生じたときは、主治医または協力医療機関と連

絡をとり、適切な措置を講ずる。

- 2 事業所は、利用者に対する指定認知症対応型共同生活介護の提供により事故が発生した場合は、市町村、当該利用者の家族に連絡するとともに、必要な措置を講じるものとする。
- 3 事業所は、前項の事故の状況及び事故に際して行った処置について記録をするものとする。
- 4 事業所は、利用者に対する指定認知症対応型共同生活介護の提供により賠償すべき事故が発生した場合には、損害賠償を速やかに行うものとする。

(非常災害対策)

第20条 非常災害が発生した場合、従業者は利用者の避難等適切な措置を講ずる。

また、管理者は、日常的に具体的な対処方法、避難経路及び協力機関等との連携方法を確認し、災害時には避難等の指揮をとる。

- 2 非常災害に備えて必要な設備を設け、消防計画、風水害、地震等に対処する計画を作成し、通報及び関連機関との連携体制を整備し、防火管理者また火気・消防等についての責任者を定め年2回定期的に避難、救出その他必要な訓練を行う。
- 3 非常災害の発生の際にその事業が継続できるように、他の社会福祉施設との連携および協力を行う体制を構築するように努める。

(虐待防止に関する事項)

第21条 事業所は、利用者の人権の擁護、虐待の発生又はその再発を防止するため次の措置を講ずるものとする。

- (1) 虐待防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を定期的に開催するとともに、その結果について従業者に周知徹底を図る。
- (2) 虐待防止のための指針を整備する。
- (3) 虐待を防止するための定期的な研修を実施する。
- (4) 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を設置する。

(身体的拘束等)

第22条 事業所は、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為は行わない。やむを得ず身体的拘束等を行う場合には、その様態及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録するものとする。

- 2 事業所は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じる。
 - 一 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図るものとする。
 - 二 身体的拘束等の適正化のための指針を整備する。
 - 三 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的実施する。

(地域との連携など)

第23条 事業所は、その運営に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等地域との交流に努める。

- 2 事業所は、指定認知症対応型共同生活介護の提供に当たっては、利用者、利用者の家族、地域住民の代表者、本事業所が所在する圏域の地域包括支援センターの職員、認知症対応型共同生活介護について知見を有する者等により構成される協議会（以下この項において「運営推進会議」という。）を設置し、おおむね2月に1回以上、運営推進会議に対し提供している本事業所のサービス内容及び活動状況等を報告し、運営推進会議による評価を受けるとともに、運営推進会議から必要な要望、助言等を聴く機会を設ける。
- 3 事業所は、前項の報告、評価、要望、助言等についての記録を作成するとともに当該記録を公表するものとする。

（業務継続計画の策定等）

- 第24条 事業所は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対する指定認知症対応型共同生活介護の提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じるものとする。
- 2 事業所は、従業員に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的実施するものとする。
 - 3 事業所は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。

（その他運営についての重要事項）

- 第25条 事業所は、全ての介護従業者（看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、介護保険法第8条第2項に規定する政令で定める者等の資格を有する者その他これに類する者を除く。）に対し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講じるものとする。また、従業員の資質向上のために研修の機会を次のとおり設けるものとする。
- 2 事業所はこの事業を行うため、ケース記録、利用者負担金収納簿、その他必要な記録、帳簿を整備する。
 - 3 事業所は、適切な指定認知症対応型共同生活介護の提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であつて業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業員の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じるものとする。
 - 4 事業所は、指定認知症対応型共同生活介護に関する記録を整備し、認知症対応型共同生活介護計画の記録については、当該計画に基づく指定認知症対応型共同生活介護サービスの提供を終了した日から、その他の記録については当該記録を作成し、又は取得した日から2年間は保存するものとする。
 - 5 この規程に定める事項のほか、運営に関する重要事項は、管理者が定めるものとする。

- | | | | |
|-----|-------------|----|-----------|
| 付 則 | この規程は、平成14年 | 4月 | 1日から施行する。 |
| 付 則 | この規程は、平成15年 | 8月 | 1日から施行する。 |
| 付 則 | この規程は、平成17年 | 4月 | 1日から施行する。 |
| 付 則 | この規程は、平成18年 | 1月 | 1日から施行する。 |
| 付 則 | この規程は、平成20年 | 6月 | 1日から施行する。 |

- 付 則 この規程は、平成23年 5月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、平成23年 8月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、平成23年 9月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、平成25年10月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、平成27年 8月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、平成28年 8月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、平成29年11月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、平成29年12月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、平成30年 8月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、令和 2年 4月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、令和 3年10月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、令和 4年 6月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、令和 5年 4月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、令和 5年11月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、令和 6年 4月 1日から施行する。
- 付 則 この規程は、令和 7年 4月 1日から施行する。